



“学びの森” だより

平成 29 年度

第 3 号

平成 29 年 6 月 1 日発行

自身を見つめながら

窓から見える山々は新緑の頃より、緑色に深みが増してきました。その緑色をよく見ると、若草色あり、萌葱色あり、浅緑色あり、深緑色ありと様々です。色の見本帳には、緑色系だけで50色もありました。緑一色で括れない世界です。

6月になり、遠足、運動会、修学旅行、リレー大会など、大きな行事を経験して、学級や学年の子供たちも様々な色を出してきていることでしょう。

また、4月に転入された先生方も、新たな学校で教育活動に邁進していることと思います。学びの森でも、今年は、年5回の訪問がある2年目教員と、県・市講師で講師歴の無い方を対象に、本年度の目標や訪問計画作りを中心とした事前懇談を行いました。

その中で、次のようなことが話題になりました。

「学級担任の仕事は、同時進行で進めなければならないことが山ほどあるので、面食らうことが多いし、主任さんの学級を手本にしようとする、すでに三歩も四歩も先を行っていて、焦りを感じています。」と。焦ってしまう気持ち、よく分かります。でも、ここで、自分の目標を見失って、指導の形を揃えることにエネルギーを使い果たさないでほしいと思います。

昨年の4月の教育新聞に、倉沢均前香川県教育センター所長のコラムが掲載されました。それは宿泊学習の記録のビデオに映っている場面について書かれているものでした。

木漏れ日の中、山を登る子どもたち。少し開けた場所でクラスごとに並ぶ様子が映っています。「よいしょ」と腰を下ろす子どもたちは、少しざわついています。その時です。「小鳥の音が聞こえますか？」ある先生が静かに言いました。子どもたちは耳を澄ませました。それは、静かにさせるための一言でした。倉沢さんは、その後の似たような場面でこの言葉を使って指導することが何度かあったそうです。ところが、どうもじっくりこない。ビデオのように子どもたちに届かないのです。もちろん、子供の実態やその場の状況、子どもと教師との関係も異なるのだから当然です。ただ、当時の自分には、スキルやノウハウといった知識を獲得して、それを使えばよいという考えがあったと思い返しています。

今、思うことは、若い先生方には、大いに知識や技術を学んでほしい。しかし、大事にしてほしいのは、極めて具体的、実践的な現場での経験を通してプロの技術の奥にある「優れた心得(魂、ハート、スピリッツのようなもの)」をつかんでほしいと願うのです。と述べられています。

さらに、『そのためには、「記録に残す」習慣を身に付けてほしい。日々の反省点を明確な文章にして、深く自分の課題を見つめる。特に、失敗した時は、最高の学びの機会である。謙虚な心の姿勢を持ち続け、ひたむきに続けること。時間は要するが、心得をつかむための優れた確実な方法だと思っている。』と具体的に示されていました。

6月は、先生方や子供たちにとって、一学期の学びの充実期であります。

焦らず、目標を見失わずに、日々の実践を続けていってほしいと思います。



「学校支援地域本部事業」について



裾野市学校支援地域本部事業は、学校・保護者・地域が一体となった「地域との協働による学校づくり」を進めるために、幼稚園・小学校・中学校に「スクールコーディネーター」を配置し、学校支援ボランティアのより一層の活動の推進を図る趣旨で実施されています。

スクールコーディネーターは、各学校(地域)が選出し、裾野市教育委員会から委嘱されています。学校支援ボランティアの推進・運営をより効果的に行い、その教育力を最大限に生かすことを目的に配置されており、学校のニーズに応じた地域・保護者の人材や施設等の発掘、協力依頼、調整、打ち合わせ等が主な活動内容になっています。

本事業では、それぞれの地区で子どもたちと地域の大人が多くの関わりを持つことで、学習効果の向上や多様な体験機会の増加、コミュニケーション能力の向上等、子どもたちの学びが深まったり、豊かな感性が芽生えたりする活動を今年度も実施していきます。

学びの森では、コーディネーターさんの活動を中心に、本事業における各本部の活動情報を、ホームページで紹介をしていく予定です。

第1回スクールコーディネーター連絡協議会



4月26日：裾野生涯学習センター

新任のスクールコーディネーターの方へ教育長から直接委嘱状が交付されました。教育長挨拶、コーディネーターの自己紹介後、本事業の趣旨やコーディネーターの役割、また学びの森の役割について教育委員会事務局から説明がありました。会議の後半は、昨年度までの本事業を実施してみたの各学校の状況や感想などが述べられ、情報交換が行われました。その中で、学校からの要請だけでなく、地域にこんな人材がいるが学校の教育活動の中で活用できないかとコーディネーターから学校側へ提案し、実現した例なども紹介されました。こうした双方向での取組が広がっていることも、本事業の確かな積み重ねを感じます。

学校支援地域本部事業 第1回運営委員会

5月10日：裾野市生涯学習センター

スクールコーディネーター、幼小中学校担当者が参加しました。事務局から本事業の趣旨や運営、本年度の取り組みについて説明がありました。後半は、数人ずつのグループワーク形式による情報交換を行いました。各自が記入した課題(ピンクの付箋)をもとに、解決策(青い付箋)をグループごと整理しながら話し合いを深め、最後に各グループから発表を行いました。「地域の人材確保」や「スクールコーディネーターの認知」など様々な課題や解決策が挙げられました。また、さらに事業を充実させるために実際に工夫している事例も紹介されました。他のグループの話題も共通理解でき、有意義な情報交換の時間となりました。



5/10 学校支援地域本部事業 第1回運営委員会の様子

今年度のスクールコーディネーターの皆さんです。1年間よろしくお願ひいたします！



編集・発行：“学びの森”

〒410-1102

裾野市深良435番地

生涯学習センター2階

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904